

6 単元計画 視覚の世界を探究しよう (配当時間計 12 時間)

題目(配当時間)	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
1 . 作品の鑑賞と 考察 (2)	西洋の科学的合理主義の始まりであるレオナルド・ダ・ヴィンチ「最後の晩餐」、ラファエル「アテネの学童」、日本の中世・近世の作品「源氏物語絵巻」、北斎「富岳三十六景」、20世紀のピカソの作品「ゲルニカ」「卓上の静物」を鑑賞し考察する。	それぞれの作品を見て感じたこと、発見したこと、興味を抱くこと、疑問に思うことを挙げてワークシートに記入させる。 それぞれのものの見方やとらえ方、表現手法の特徴について考えさせる。
2 . 演習：表現手法の追体験 (7)	レオナルドのパースペクティブ、日本の俯瞰図や逆パース、ピカソのキュービズムの概念を理解し、その手法を応用して描く。	表現手法を追体験することによって、その時代の人々のものの見方やとらえ方を理解させる。 その手法を用いて実際にスケッチをおこない、自分なりの表現活動を通して、それぞれ空間認識の意味を理解させる。
3 . 作品の背景を 探究 (7)	作家の生涯や業績について調べる。 関連する文献やスケッチ・絵画などを調べ、その時代の人々のものの考え方について考察する。	その時代に生きた人々のものの見方、思考や感性、社会的背景についても探究させる。
4 . 比較と考察 (4)	「東洋と西洋」、「レオナルドとピカソ」、「中世と近現代」、「パースペクティブとキュービズム」など、様々な切り口から考察を試みる。	作品の背景にある世界観、価値観など、多面的な視点で考察させる。さらに人間の生き方についても考えを深めさせる。 また、現代の、そして自分のものの見方やとらえ方についても考察し、レポートや作品にまとめさせる。

評価の観点と方法	教科学習とのつながり など
課題に取り組む意欲・関心・態度 (行動分析)	・情報を収集・整理し正確に伝える能力 (国語) ・諸地域世界の特質の理解と認識 (地歴) ・芸術文化の理解と鑑賞の能力 (芸術)
芸術文化の鑑賞の能力 (ワークシート等の記録分析)	
造形的な思考力と表現力 (作品評価)	・事象を数理的に考察し処理する能力 (数学) ・科学的な探求の精神、能力・態度 (理科) ・造形的な思考力・創造力・表現力・ビジュアルコミュニケーション能力 (美術) ・主題を生成し、構想・展開・表現する能力 (芸術・国語) ・個性や感性をとおした創造的な表現と鑑賞の能力 (芸術)
	
多面的な視点からの情報収集や探究の能力 課題を整理し表現する能力 (行動分析、レポート等の評価)	・自分の考えを論理的にまとめる能力 (国語) ・歴史的思考力 (地歴) ・時代・地域・民族の文化理解 (社会、芸術)
文化について、その事象を生み出した社会の価値観を探りながら理解しようとする態度・考察力 (レポート評価)	・自然や社会の事象への関心・意欲・態度 (社会・理科) ・現在の社会について主体的に考察し、理解を深める力 (政経・公民) ・人間としてのあり方や生き方についての自覚 (公民)